Ryunan Spirit

校長通信
R6.01.15
Vol.40

【自分たちに何ができるか ②
みんなの気持ちを届けよう！！】

今回の能登地震、日を重ねれば重ねるほど、その被害の大きさが伝わってきます。井崎市長さんのお話では、流山市から姉妹都市の能登町へ向け市役所の方が要請のあった物資を運送会社の方々とともに運ばれたそうです。金沢市から能登町に入るまで、道路事情がかなり悪く、また大渋滞もあって十七時間もかかったことがわかりました。到着までに二十四時間以上かかったことになります。市内にも義援金を受けつけているところがありますが、生徒会の人たちを中心に募金を呼びかけてくれ、二日間実施しました。急なお知らせだったにもかかわらず、たくさんの仲間たちが協力してくれました。みんな自身は働いているわけではないから、お小遣いやお年玉からやりくりしてくれたのだと思いますが、とてもたくさんの金額が集まりました。ありがとうございます。困ったときにお互い助け合えること、すぐに行動できることは、本当に素晴らしいと思います。これも南中生の力、まさにRyunan Spiritですね。

生徒の**みなさんだけで八万四千円を超える**金額が集まりました。先生方や保護者の皆様の分と併せ**二十万余円**を市内の他の学校とも連携し、市長さん、教育長さんのお力を借りて、直接姉妹都市である能登町へ届けていただくことにしたいと考え、今準備を進めています。詳細が決まりましたら、改めて報告させていただきます。みなさんのご協力に心から感謝します。**一日も早く能登町や石川県、新潟県など被災された地域の復興がなりますように。これからもできることを私たちも力を合わせて実施していきましょう。一人一人の力は小さくとも、みんなの思い、力を合わせれば必ずや大きな成果を得ることができる。今回の活動で、それを証明した二日間であったと思います。**

もうひとつ、姉妹都市である能登町についてのエピソードを紹介しておきます。みんなは余り記憶にないと思いますが、東北地方を襲った東日本大震災、いわゆる３・１１の時、原子力発電所の事故の影響で、水道が一時使えなくなったことがあります。流山市でも断水になり、飲み水が足らない事態が発生しました。その時に、姉妹都市だった能登町にお願いしてペットボトルの水を送っていただいたのですが、なんと**能登町にある全てのペットボトルの水を集めて流山市のために**届けてくださったのだそうです。すごいことだと思いませんか。そんなご恩に少しでもお返しできたらと思います。これからも私たちにできることを探していきたいですね。

大学院に通っていた二年間、私は上越市で暮らしていました。私たちの住む太平洋側は晴天が続きかなり空気も乾燥していますが、日本海側は晴れの日が極端に少なく、いつも鉛色の雲に覆われていた感じです。大学の周りの幹線道路も雪の壁が出来ていました。今回の地震は能登半島全体に大きな地震が発生しています。これから益々厳しい気候の日が続きます。私たち一人一人が思いを寄せることだけでも忘れずにいたいものですね。

もし、私たちの地域で大きな地震が起きたなら、どんな行動をとればいいのか。お家の方とも確認しておくことも大切です！！